

シラバス – ITプロジェクトマネジメント演習 –

- [▼ 基本情報](#)
- [▼ 科目概要](#)
- [▼ 科目目標](#)
- [▼ 履修前提条件](#)
- [▼ 関連するバッジ](#)
- [▼ 授業教材](#)
- [▼ 期末試験実施方法について](#)
- [▼ 授業時間外の学修と評価について](#)
- [▼ 評価配分](#)
- [▼ 各回の授業内容\(予定\)](#)

● 基本情報

学部	IT総合学部
科目	ITプロジェクトマネジメント演習
教員名	勝 真一郎
年度 / 学期	2026年度春学期
開講期間	2026/4/3 ~ 2026/8/6
科目履修区分	専門応用(選択)／専門応用科目
単位	2
科目レベル	4

● 科目概要

本科目では、情報システム開発のプロジェクトをケーススタディ形式で模擬体験する。与えられたケースについて、課題の抽出、システムソリューションの提案、投資対効果の算出、工数計算、WBS(Work Breakdown Structure)作成などを行いシステム開発プロジェクト計画書を完成させる。計画書に基づいて仮想システムを実際に作成し、評価にもとづいて改善計画を練る。システム開発プロジェクトの上流工程から下流工程までを一貫して体験することによって、実務的なシステム開発プロジェクト計画書の作成を目指す。

【科目コード】PM351E

● 科目目標

【履修目標】

- ①情報収集とSWOT分析の結果に基づいた課題を抽出できる
- ②仕様や環境選択の理由を明確にしたうえで、システムソリューションを提案できる
- ③コスト・工数に一貫性のある計画書を作成できる

- ④計画書に基づいて、実際の利用を想定した仮想システムを構築できる
- ⑤他者のシステムの良い点を取り入れた改善計画を作成できる
- ⑥論理的で一貫性のあるプレゼンテーションができる

【到達目標】

- ①与えられたケースに対して課題を抽出できる
- ②プロジェクトの把握
- ③課題を改善するためのシステムソリューションを提案できる
- ④提案したシステムの開発に関する諸計画書を作成できる
- ⑤計画書に基づいて、仮想システムを構築できる
- ⑥システムのテストと検証を行い、改善計画を策定できる
- ⑦作成したシステムについてプレゼンテーションができる

※授業科目間における成績評価基準の統一化と修得基準の明確化を目的に、科目目標を履修目標と到達目標に分けて設定しています。履修目標と到達目標の定義は以下の通りですが、最低限身につける内容を表す到達目標のみ設定している科目もあります。

履修目標：授業を履修した人が、授業で扱う内容を十分に身につけたことを表す水準です。履修目標を概ね達成すれば、成績はBに相当します。

到達目標：授業を履修した人が最低限身につける内容を表す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修が必要な水準です。到達目標を概ね達成すれば、成績はDに相当します。

[この科目とディプロマポリシーとの対応はこちらのページから確認してください](#)

● 履修前提条件

・プロジェクトマネジメント入門
の単位を修得済みであること

*演習内で実際にウェブサイト制作を行います。

※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。教員の経歴や補足説明は以下の通りです：
機械製造業で18年勤務。設計、製造、販売のプロジェクトマネジメントを経験。情報システム部門のトップを務めるなど企業内の経営と管理の職歴もある。現在もコンサルタントとして、企業及び地方自治体におけるプロジェクトの支援を行っている。

● 関連するバッジ

管理

● 授業教材

教科書 ※購入必須

題名	著者	出版社	発行年	備考
なし				

ツール

ツール名	発売元	バージョン	必要PCスペック	備考
CC Producer	大学提供			

ツール名	発売元	バージョン	必要PCスペック	備考
CloudCampus コンテンツ制作ツール	大学提供			
Jimdo, RCMSなどのフリーのCMS	OSS			

参考資料 ※購入任意

題名	著者	出版社	発行年	備考
仕事の成功はダンドリで決まる！カレーで学ぶプロジェクトマネジメント[Kindle 版]	勝 真一郎	渕上印刷株式会社	2013.6	Kindle版 455円(税別)。※2025年2月1日時点の金額です。

その他の資料

なし

● 期末試験実施方法について

レポート形式

● 授業時間外の学修と評価について

学期を通してケーススタディの形で一つのプロジェクトを実施する演習授業です。回を飛ばすと成立しないので、毎回の確実な進捗が求められます。このことは、プロジェクトマネジメント実践の基本でもあります。 遅刻せず、毎回余裕を持って受講し課題に取り組んでください。

その他に、

- 前回の講義内容について繰り返し視聴を行って復習するとともに、予習として科目のお知らせで提供する追加情報や次回の学習資料を確認してください。
- 学習資料を見た上で、分からぬ専門用語については、学内外の電子辞書サービス等を活用して調べておきましょう。
- 受講後の発展的学習として、シラバスや授業内で紹介する参考図書や関連情報のサイトを熟読してください。

【オフィスアワーについて】

本学は通信制のためZoomで対応します。事前にURLを連絡しますので、希望する方は「学生サポートページ」のオフィスアワーフォームからお知らせください。

実施は希望日時で応相談

メールでの相談も受け付けています。

● 評価配分

ディベート	レポート	小テスト	期末試験	その他	合計
30 %	30 %	20 %	20 %	0 %	100 %

● 各回の授業内容

回	授業内容および目次	小テスト他	備考(教科書、参考資料等)
第1回	<p>1)タイトル: オリエンテーション</p> <p>2)学習目標: 1. 本演習の進め方を説明できる 2. ケースの内容と解決案提示までの流れを説明できる</p> <p>3)目次: 第1章 オリエンテーション 第2章 ケースの解説</p>	・小テスト	
第2回	<p>1)タイトル: SWOT分析による現状分析</p> <p>2)学習目標: 1. ケースを読み込み、情報収集を行った上でSWOT分析を使った現状分析ができるようになる</p> <p>3)目次: 第1章 SWOT分析による現状分析</p>	・ディベート	
第3回	<p>1)タイトル: 情報システムの仕様書の作成</p> <p>2)学習目標: 1. 情報システム仕様書の構成と書くべき項目について理解し、作成できるようになる</p> <p>3)目次: 第1章 情報システム仕様書の作成</p>	・レポート	
第4回	<p>1)タイトル: 情報システムの構築環境の選択</p> <p>2)学習目標: 本演習の中で構築するウェブサイトの構築環境について、構築予定内容と照合して機能を評価し、選択できるようになる</p> <p>3)目次: 第1章 情報システム構築環境の選択</p>	・ディベート	
第5回	<p>1)タイトル: 投資対効果の算出</p> <p>2)学習目標: 情報システム開発の投資対効果の算出のしかたについて学び、さらに自分の選択したケースについて投資対効果を算出できるようになる</p> <p>3)目次:</p>	・レポート	

	第1章 投資対効果の算出		
第6回	<p>1)タイトル: WBSの作成</p> <p>2)学習目標: WBSの基本を理解し、自分の選択したケースについて情報システム構築に関するWBSが書けるようになる</p> <p>3)目次: 第1章 WBS作成のポイント</p>	・レポート	
第7回	<p>1)タイトル: ソリューションの実現</p> <p>2)学習目標: 情報システム構築の各ステップにおける品質確認のための計画書作成のしかたについて説明できる</p> <p>3)目次: 第1章 課題の抽出 第2章 課題の分析と提案方針 第3章 構築環境の検討とコスト見積り 第4章 構築計画の提案</p>	・小テスト	
第8回	<p>1)タイトル: 品質計画書作成</p> <p>2)学習目標: 情報システム構築の各ステップにおける品質確認のための計画書作成のしかたを説明できる</p> <p>3)目次: 第1章 品質計画書作成のポイント</p>	・レポート	
第9回	<p>1)タイトル: 情報システムの構築①</p> <p>2)学習目標: これまで作成してきた計画書に基づいて情報システム構築をおこなう</p> <p>3)目次: 第1章 情報システム構築の前半ですべきこと</p>	・ディベート	
第10回	<p>1)タイトル: 情報システムの構築②</p> <p>2)学習目標: これまで作成してきた計画書に基づいて情報システム構築をおこなう後半戦</p> <p>ウェブサイトの制作と初期データの入力を終え、提案の内容を具現化したサンプルサイトとして提出する</p> <p>3)目次:</p>	・ディベート ・レポート	

	第1章 情報システム構築の後半ですべきこと		
第11回	<p>1)タイトル: 品質検証とテスト</p> <p>2)学習目標: 品質検証の手順を学び、前回までに作成したサイトについて品質検証を実施する</p> <p>3)目次: 第1章 品質検証とテスト 第2章 優秀プレゼン その1 第3章 優秀プレゼン その2 第4章 優秀プレゼン その3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート ・レポート 	
第12回	<p>1)タイトル: 投資対効果の検証</p> <p>2)学習目標: 本演習で作成したシステム投資対効果は実際にはどうであったのかの検証を行い、改善提案ができるようになる</p> <p>3)目次: 第1章 投資対効果の検証 第2章 ビジネス機会の獲得 第3章 顧客満足度の向上 第4章 前提と仮説の修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 	
第13回	<p>1)タイトル: 改善プラン作成</p> <p>2)学習目標: 本演習で作成したシステムについて、工数と予算についてどのように見直しを図っていくのかについて説明できる</p> <p>3)目次: 第1章 工数と予算からの見直し 第2章 機能の過不足と採用技術 第3章 データの不足とミスマッチ 第4章 非機能要件の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 	
第14回	<p>1)タイトル: 最終プレゼン準備</p> <p>2)学習目標: 期末試験で行う最終プレゼン資料の準備のしかたについて説明できる</p> <p>3)目次: 第1章 最終プレゼン準備のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	
第15回	<p>1)タイトル: プロジェクトの振り返り</p> <p>2)学習目標:</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート 	

演習授業全体についての振り返りを行い、システム開発プロジェクトで重要な点を説明できる

3) 目次:
第1章 プロジェクト実施から学ぶこと

Copyright © 2011 Cyber University Inc. All Rights Reserved.